

2024年度 保育園ぐらんでいーる 園評価

評価者 園長 杉靖子

評価の目安 A:80%以上できている B:50%以上できている C:50%以下しかできていない

1. 保育理念

評価の観点	評価	評価の根拠
保育士一人ひとりが、保育理念、保育方針を理解している。	A	保育士には入職時や面談時だけではなく、日頃から園の保育に対する基本的な考えを伝えている。また、職員会議でそれについて話し合う機会を設けている。保護者に対しても、見学や入園前の説明会で、保育理念や保育方針、めざす子ども像を伝え、それらを理解した上での入園を検討してもらっている。また、保護者会や面談などで園の保育に対する考え方を伝えている。
保育目標や方針を保護者に知らせている。	A	

2. 子どもの最善の利益

評価の観点	評価	評価の根拠
人権に配慮し、お互いを認め合う心を育てている。	A	それぞれの違いを認め、その子らしさを大切にしている。また自分の良いところを発揮できる場を作り、自分と違う友達の良さに気付けるようにしている。子どもが自分が大切にされていると感じ、自分の思いを伝えることができる雰囲気を作っている。園生活で行うことを、性別年齢関係なく、子どもが選択できるようにしている。
一人ひとりの子どものありのままの姿を受け入れている	A	

3. 保育計画

評価の観点	評価	評価の根拠
長期、短期の保育計画を作成し見通しを持った保育を実施している。	A	保育所保育指針に基づき、全体的な計画、年間計画、月案、週案を作成している。月末に計画を振り返り、次月の計画をたてる話し合いをクラスごとに行ったり、行事の振り返りをしたりしている。
保育計画、年間行事が適切であったか振り返りを行い、改善に努めている。	A	パートの保育士にも日誌を書いてもらうことで、しっかり計画を意識して保育するようになり、積極的に計画の案を出したり自分の保育を振り返ったりと、意識改善を図ることが出来ている。

4. 保育内容

評価の観点	評価	評価の根拠
一人ひとりの子どもが、生活や遊びを通して主体的に活動できるよう援助している。	B	やってみたい！もっとやりたい！という個々の子どもの気持ちを集団としての活動の中で叶えたり、自分で活動を選択できる環境を作ることの難しさを感じている保育士が多い。
一人一人の子どもが、持っている力を思う存分発揮できる環境を整え、達成感、満足感を得られるような保育を行っている。	B	個々の子どもの良いところ、得意なところを、さらに伸ばせるように、いろいろな子が輝ける場面を作っている。友達の影響を受け、一緒に楽しんだり、苦手なことに挑戦したりできるように、集団で育つ良さを生かした保育、結果ではなく過程を大切にした保育を行っている。お互いを認め合い、助け合う心が育つ保育を行っている。
一人一人の発達や個性に応じた保育、援助を行っている。	A	
遊びや生活を通して、共に育つことができる保育を行っている。	A	

5. 支援が必要な子どもの保育

評価の観点	評価	評価の根拠
家庭や関係機関と連携した支援を行うために個別の計画を作成している。	A	家庭や関係機関とかかわりを密に持ち、一人一人の発達状況に応じた個別支援計画を作成している。また、クラスの中でどうすれば一緒に活動ができるか考え、友達とかかわりながら生活できるように援助し、クラスの一員として共に育つことができるようかかわっている。
仲間と共に育つことができるよう援助している	A	

6. 保護者支援

評価の観点	評価	評価の根拠
保護者の意見や要望への対応ができています	A	懇談会やアンケートで意見要望を聞き対応している。 送迎時や連絡帳などで、園で出来るようになったことや頑張っていることを伝え、喜び合えるようにすると共に、家庭での様子を知り、保護者の思いを理解するように努めている。子育ての不安がある家庭は特に気にかけて送迎時に話をしたり、面談をしたりしている。
子どもの成長を共に喜び合えるような関係作り、援助を行っている。	A	

7. 地域の子育て支援・地域との連携

評価の観点	評価	評価の根拠
地域に根ざし、地域に愛されるために、良好な関係を築けるようにしている	A	散歩時に挨拶をしたり、自治会の清掃などの活動や会議に参加したり、地域の方に園の清掃員として働いていただいたりして、お互い顔の見える関係を築いている。 園庭開放や子育て広場を開催し、地域の子育て家庭の交流ができるようにしたり相談にのったりしている。
地域の子育て支援、地域の子育て家庭との交流をしている。	A	

8. 安全管理

評価の観点	評価	評価の根拠
生活にふさわしい場として、安全で衛生的な環境を用意している	A	感染対策に気を配り、消毒の徹底、感染を防ぐ環境作りを行った。また、子どもの体調をこまめに観察して体調不良時の対応を早めに行うようにした。それぞれの場合に応じた対応を想定したマニュアルを作り、職員間で共通理解をすると共に、園児や職員で訓練を行っている。また、玄関をオートロックに変えたり、駐車場から園庭に入る門扉をパスワード付きの門扉に変えたり、園庭と駐車場が見える位置にカメラを設置したり、セキュリティ強化を図っている。
感染症発生時の対応を適切に行っている。	A	
災害対策、不審者対策を行っている。	A	

9. 個人情報保護

評価の観点	評価	評価の根拠
個人情報の取扱いについて説明している	A	入園時の重要事項説明で保護者に確認をとっている。 職員は入職時に説明し、誓約書を書いてもらっている。また、定期的に守秘義務についての確認をしている。
業務上知り得た情報に関する守秘義務について全職員に周知している。	A	

10. 職員の資質向上

評価の観点	評価	評価の根拠
人間性を豊かにするために、様々なことに主体的に関り、向上しようという意識をもっている。	A	有休を好きな時に取れるようにしプライベートを充実させることで、様々なことに興味関心を持てるようにし、仕事への活力となるようにしている。園にある保育本の貸出を開始したことで借りていったり、自ら研修を見つけ参加したりする保育士もいるが、まだ自発的に行う保育士は多くない。子育て世代の保育士が多く、平日夜や休日に行われる研修に参加することが難しいため、オンデマンド配信の研修を探し、学べる機会を園で作ることが必要。
研修に参加したり、専門書を読むなどして、保育に関わる知識や技能の向上に努めている。	B	

【今後の課題】

保育士は地域とのつながりを意識して生活をしているが、子どもたちは、散歩時や広場・公園で遊んでいる時に会った地域の方々に挨拶したり会話したりすること以外、地域の方々と触れ合って地域とのつながりを感じられる活動がコロナ以降できていない。(以前は、地域の老人ホーム(2施設)と、年2回交流していた) 様々な経験をし、子どもたちが園の外にも関心を持って生活できるようにしていく方法を探る必要がある。 主体的な活動をする方法は、園の環境によっていろいろな方法があると思うので、どの方法がぐらんでいーるにあっているのか、試行錯誤中である。全職員で案を出し合い、実行し、振り返りを行い、より良い方法を探っていく。また、主体的な保育に関するオンデマンド研修を探し、全職員が受講できるようにする。 職員の興味関心に沿っていたり、新たな知識を得ることができるオンデマンド研修を探し、全職員に知らせると共に、研修を受けたいと思っている職員に時間を確保し、研修を受けやすい環境を整える。
